

発掘新聞

8月31日号

発掘速報展 2012

開催中不定期発行

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

行橋市福原長者原遺跡最終局面へ



行橋市福原長者原遺跡の南門跡の柱穴たち割り作業を行う当館岡田主任技師（右）と下原主任技師（左）

=当館撮影

奈良時代九州最大級の役所跡、南門跡と回廊状遺構の柱穴たち割り作業中

先日から新聞やテレビなどで多くの話題をさらっている、当館が発掘調査を行う行橋市福原長者原遺跡の調査が最終段階をむかえている。

今月8日から、八脚門である南門跡と回廊状遺構の柱をすえた直径1m前後の穴を半分掘り、建物の構造を明らかにするための作業（たち割り作業）を開始した。この作業で東九州自動車道建設に伴う発掘調査では最後の作業となる。

これまでの発掘調査成果から、福原長者原遺跡は、奈良時代、東西の規模が最大で約150mに及び、また八脚門を備えた、九州でも最大級の規模を誇る、重要な役所であったと考えられており、豊前国府一期の可能性も指摘されている。

今回の柱穴のたち割り作業によって、柱の痕跡やその深さから建物の規模が推測できる可能性があり、また門の建て替えの有無や門が使われなくなった後に柱の地中部分を切り取ったか、抜き取ったかななどの様々な情報を得ることができると期待されている。

さらにこれまで出土した遺物が極めて少ない当遺跡では、柱穴から出土する土器などの遺物によって、その建物の時期などが判断できることも期待される。

この成果については、来年度の発掘速報展で紹介する予定。是非ご期待下さい！
（大庭孝夫記者）



実測作業を行う松崎臨時調査員

●今号の「人」
最初に重要な遺跡を担当できて幸運です
当館文化財調査室

松崎友里臨時調査員

熊本大学大学院卒業後の四月より、岡田主任技師と一緒に福原長者原遺跡の調査を担当しています。専門は古墳時代の甲冑の研究です。

最初の現場が福原長者原遺跡ということで、緊張感を持ちつつも、発掘調査の面白さを日々感じています。

今後は、発掘現場での岡田主任技師の統率力・技術力を見習いながら、一人で発掘現場をできるようなことが目標です。

私が福原長者原遺跡の難問を明らかにします。

当館文化財調査室 岡田諭主任技師

福原長者原遺跡の調査最重要地点の一つである南門跡の調査を現在行っています。数々の難問もでてくる毎日ですが、その難問をたち割り、明らかにするようがんばっています。ご期待ください。

